平成２３年３月に追加公表した移入種

ハクビシン

雑食性のジャコウネコ科の動物。現在はほぼ県内全域に分布拡大している。イタチ科食肉類との競合が懸念されるほか、農業被害も発生している。

コブハクチョウ

飼育している公園も多いが、近年、逸出した個体の野外での確認例が増加している。体が大きく、他の水鳥への悪影響が懸念される他、増加した場合には農作物被害も懸念される。

クワガタムシ科（県内在来種･亜種を除く）

国外からの輸入個体が大量に流通・飼育されており、県内でも、野生での確認事例が複数ある。在来種との間での生態的競合や交雑が懸念される。

タイワンタケクマバチ

県内において急速に分布を拡大している。在来のクマバチや多くの花粉を利用する昆虫との競合が懸念される。竹の搬出移動に伴って全国に広がる懸念がある。

ホソオチョウ

アゲハチョウ科の蝶。幼虫はウマノスズクサを食草とし、在来種ジャコウアゲハとの競合が懸念される。県内に分布拡大しており、飼育者による故意の放蝶の疑いもある。

アカボシゴマダラ

2010年に名古屋市内の公園で発見された。在来種ゴマダラチョウとの競合が懸念される。関東では急速に分布拡大し問題となっており、県内でも注意を要する。

トウネズミモチ

公園などに広く植栽されている。種子が野鳥によって散布され、分布を拡大している。耐陰性があるため林内にも侵入し、他の植物の生育を妨げる。

タカネマツムシソウ

本州と四国の亜高山帯に生育する多年生草本。故意に持ち込まれたと考えられるものが豊田市稲武町の面ノ木峠等に生育している。在来のマツムシソウとの交雑が懸念される。

ポンポンアザミ

南アメリカ原産の多年生草本。乾燥地から湿潤地まで多様な環境に適応し、繁殖力も旺盛である。豊橋市内や田原市内で繁殖が確認されており、今後、分布の拡大が懸念される。

ノハカタカラクサ

ツユクサ科の多年草。園芸目的で導入されたものが野外に逸出した。耐陰性があるため林内にも侵入し、密生群落を形成する。林床植物等、他の植物への影響が問題である。

モウソウチク

中国大陸原産で、日本には1700年代に持ち込まれたと考えられている。近年、竹材や筍の利用減少に伴い、管理放棄された竹林の里山林等への分布拡大が問題となっている。

このほか、外来生物法※１により、オオクチバス、アライグマ、オオキンケイギク等の97種類※２が特定外来生物として、飼育、栽培、野外への放逐等が規制されています。

※１ 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
関連URL
http://www.env.go.jp/nature/intro/

※２ 平成２３年３月現在